

基本情報			
科目ナンバー	KCI1-417-33-0	開講年次	1年生
年度・学期	2023年 第1ターム	曜日・時間	金曜 4限
担当教員	三澤純	単位数	1単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	8
時間割所属	教養教育 (58)	時間割コード	A6231

学修成果とその割合	
1.豊かな教養	30 %
2.確かな専門性	0 %
3.創造的な知性	30 %
4.社会的な実践力	0 %
5.グローバルな視野	30 %
6.情報通信技術の活用力	0 %
7.汎用的な知力	10 %

詳細情報																												
講義題目(テーマ)	核兵器の歴史と未来 2ー「原爆神話」の呪縛ー																											
使用言語	「日本語」による授業																											
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト (講義中にプリントを配布する。)																											
授業の形態	講義																											
対面・遠隔の別	対面形式																											
授業の方法	対面授業																											
授業の目的	核兵器をめぐる歴史的事実を知った上で、20世紀の歴史を語ることが出来るようになることを目指します。																											
授業の概要	2017年、国連で122ヶ国が賛成して、核兵器禁止条約が採択されました。同年のノーベル平和賞は、この条約採択のために、世界各国の様々な団体や個人をまとめてきたNGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)に贈られました。しかし2020年1月、人類絶滅までの残り時間を示す「世界終末時計」は、過去最悪の「残り100秒」と発表されました(前年は「2分」)。そして2023年1月、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受けて、時計の針は10秒進められ、「世界終末時計」は1947年以来、最も短い「90秒」とされました。核兵器禁止条約は、核を「非人道的な絶対悪」とみる素朴な人間の感覚を出発点としています。そもそも広島・長崎への原爆投下から既に77年が経過し、核廃絶の世論が地球規模の広がりを見せているにもかかわらず、なぜ今日の地球上には、人類を幾たびも絶命させうる大量の核兵器が存在しているのでしょうか?またロシア政府が、核兵器使用の可能性を臆面もなく、世界に向けて表明する背景には何かあるのでしょうか?本講義で、一緒に探っていきましょう。																											
実務経験を活かし た授業	非該当																											
学修目標	A水準(到達すれば「優」に相当) ①「原爆神話」の形成過程とその歴史の意味を説明することができる。 ②「原爆神話」が世界的に拡散した経緯と背景とを説明することができる。 ③「原爆神話」の虚構性を明確に指摘することができる。 C水準(到達すれば「可」に相当) ①「原爆神話」の内容と形成過程を説明することができる。 ②「原爆神話」が世界的に拡散した経緯を説明することができる。 ③「原爆神話」の虚構性を指摘することができる。																											
評価方法・基準	学期末試験(80%)と開講期間中に実施する2回のレポート(20%)とを総合的に判断して評価します。																											
履修条件	第二次世界大戦の推移と広島・長崎に原爆が投下された背景に関する知識を有していること。																											
各回の授業内容と事前・事後学習	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容概略</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「原爆神話」の誕生</td> <td>第二次世界大戦後、アメリカで誕生した「原爆神話」と『ニューヨーク・タイムズ』との関連性を検討する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「原爆神話」とトルーマン大統領</td> <td>広島原爆投下に関して、トルーマン大統領が発表した声明とラジオ演説とを素材に、「原爆神話」の構造を探っていく。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「原爆神話」の世界的拡散</td> <td>「原爆神話」が世界的に拡散する際のキーマンであった『ニューヨーク・タイムズ』のローレンス記者の思想を浮き彫りにする。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「原爆神話」の論理的構造①</td> <td>現在、地球上に1万4千発の核兵器が存在している状況において、極めて重要な役割を果たしている「原爆神話」の論理的構造を、軍事的・政治的側面から検討する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「原爆神話」の論理的構造②</td> <td>現在、地球上に1万4千発の核兵器が存在している状況において、極めて重要な役割を果たしている「原爆神話」の論理的構造を、経済的・宗教的側面から検討する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「原爆神話」の危機と、その立て直し①</td> <td>ジョン・ハーシーのルポ『HIROSHIMA』がベストセラーとなったことで「原爆神話」が危機を迎えたことの歴史の意味を検討する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「原爆神話」の危機と、その立て直し②</td> <td>軍事的・経済的側面から「原爆神話」に固執する勢力が、大きく揺らいだ「原爆神話」の補強を行ったことの歴史の意味を検討する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「原爆神話」と現代社会</td> <td>核兵器禁止条約の精神に則って、核兵器廃絶を推進していくためには、私たち一人ひとりが「原爆神話」を克服</td> </tr> </tbody> </table>	回	授業テーマ	内容概略	1	「原爆神話」の誕生	第二次世界大戦後、アメリカで誕生した「原爆神話」と『ニューヨーク・タイムズ』との関連性を検討する。	2	「原爆神話」とトルーマン大統領	広島原爆投下に関して、トルーマン大統領が発表した声明とラジオ演説とを素材に、「原爆神話」の構造を探っていく。	3	「原爆神話」の世界的拡散	「原爆神話」が世界的に拡散する際のキーマンであった『ニューヨーク・タイムズ』のローレンス記者の思想を浮き彫りにする。	4	「原爆神話」の論理的構造①	現在、地球上に1万4千発の核兵器が存在している状況において、極めて重要な役割を果たしている「原爆神話」の論理的構造を、軍事的・政治的側面から検討する。	5	「原爆神話」の論理的構造②	現在、地球上に1万4千発の核兵器が存在している状況において、極めて重要な役割を果たしている「原爆神話」の論理的構造を、経済的・宗教的側面から検討する。	6	「原爆神話」の危機と、その立て直し①	ジョン・ハーシーのルポ『HIROSHIMA』がベストセラーとなったことで「原爆神話」が危機を迎えたことの歴史の意味を検討する。	7	「原爆神話」の危機と、その立て直し②	軍事的・経済的側面から「原爆神話」に固執する勢力が、大きく揺らいだ「原爆神話」の補強を行ったことの歴史の意味を検討する。	8	「原爆神話」と現代社会	核兵器禁止条約の精神に則って、核兵器廃絶を推進していくためには、私たち一人ひとりが「原爆神話」を克服
回	授業テーマ	内容概略																										
1	「原爆神話」の誕生	第二次世界大戦後、アメリカで誕生した「原爆神話」と『ニューヨーク・タイムズ』との関連性を検討する。																										
2	「原爆神話」とトルーマン大統領	広島原爆投下に関して、トルーマン大統領が発表した声明とラジオ演説とを素材に、「原爆神話」の構造を探っていく。																										
3	「原爆神話」の世界的拡散	「原爆神話」が世界的に拡散する際のキーマンであった『ニューヨーク・タイムズ』のローレンス記者の思想を浮き彫りにする。																										
4	「原爆神話」の論理的構造①	現在、地球上に1万4千発の核兵器が存在している状況において、極めて重要な役割を果たしている「原爆神話」の論理的構造を、軍事的・政治的側面から検討する。																										
5	「原爆神話」の論理的構造②	現在、地球上に1万4千発の核兵器が存在している状況において、極めて重要な役割を果たしている「原爆神話」の論理的構造を、経済的・宗教的側面から検討する。																										
6	「原爆神話」の危機と、その立て直し①	ジョン・ハーシーのルポ『HIROSHIMA』がベストセラーとなったことで「原爆神話」が危機を迎えたことの歴史の意味を検討する。																										
7	「原爆神話」の危機と、その立て直し②	軍事的・経済的側面から「原爆神話」に固執する勢力が、大きく揺らいだ「原爆神話」の補強を行ったことの歴史の意味を検討する。																										
8	「原爆神話」と現代社会	核兵器禁止条約の精神に則って、核兵器廃絶を推進していくためには、私たち一人ひとりが「原爆神話」を克服																										

していかなければならないことを確認する。

授業外学修時間の目安 本科目は、2単位科目であるため、全体で90時間分の学修が必要な内容で構成されている。授業では、2h×15コマ=30時間の学修を行うため、残り60時間の学修については、以下に応じて各自学修を行うこと。

キーワード [(学系) 人文・社会] 【パッケージ7】 核開発、原爆神話、科学技術、現代社会

**【SDGs】
SDGsについては
こちらから**



テキスト なし。毎回、レジュメと資料プリントを配布する。

参考文献 西島有厚『原爆はなぜ投下されたか』（青木書店、1968年）
荒井信一『原爆投下への道』（東京大学出版会、1985年）
この史代『夕凧の街 桜の国』（双葉社、2004年）
山口暉『ヒロシマ・ナガサキ 二重被曝』（朝日文庫、2009年）

**オフィス
・アワー**
この項目は熊本大学ポータルにログインしている者にも表示されません。（学外者には表示されません）

**担当教員への
連絡方法**
この項目は熊本大学ポータルにログインしている者にも表示されません。（学外者には表示されません）

担当教員からのメッセージ 2011年、本講義は、（財）ヒロシマ平和文化センターから、「広島・長崎講座」に認定されました。これにより、熊本大学は、世界で47番目、日本国内で31番目の「広島・長崎講座」開講大学となりました。